

生涯学習・社会教育関係職員研修講座センター研修【西北地区研修】

令和7年9月10日(水)10:00～15:00 日本海拠点館 受講者28名

1 内容

【講義・演習】

「コミュニティ・スクールの実効性が高まると見えてくる世界」
～地域学校協働活動をリノベーションするCS～

【講 師】秋田大学教育文化学部 非常勤講師

みながわ まさひと
皆川 雅仁 氏



【経 歴】

秋田県内の小、中学校で教鞭をとるとともに、秋田県教育庁生涯学習課等で社会教育の仕事にも携わってきた。2012年からは、小、中学校の校長も歴任。校長時代の2年間は、文部科学省のコミュニティ・スクール推進員も務めた。社会教育関係では、派遣社会教育主事4年、教育事務所2年、宿泊型青少年教育施設3年、社会教育機関7年、県教育庁生涯学習課6年の勤務経験があり、学校教育に17年、社会教育に21年携わってきた。2021年からは、秋田大学教育文化学部非常勤講師として社会教育経営論を担当している。また、生涯学習・社会教育、学校教育に関するさまざまな分野の研修講師として、北東北を中心に全国各地で活躍している。

【講義要旨】

- 地域と学校が共に子どもたちの成長を対等な関係で応援することが、社会を創る人材育成の理想的な姿勢です。
- 「地域とともにある学校づくり」は、CSと地域学校協働活動の関係性を理解することが重要です。地域と学校が対等で横並びの関係を築き、協働の実現には自分事意識が不可欠であり、その醸成には自由闊達な議論の場が求められます。
- CSは、学校が「社会を創る人材育成」の責任を果たすため、子どもが地域で学び活動する経験を地域住民と一緒に積ませることで成人ギャップ緩和につなげる一助となる取組です。
- 子どもが地域で活躍する人材となるため、学校では練習の場を、社会では大人との関わりを通じた体験の場を通じて、「ナナメの関係」づくりに取り組むことが重要です。
- CSでは、教員、保護者、地域住民が「熟議」を通して子どもに必要な力等を意見交流し、その意見を学校運営協議会に段階的に反映させ、そこでの議論を基にして学校や地域で展開されている地域学校協働活動をリノベーションしていくことがとても重要になります。
- 学校と地域が目的を共有し、横並びで子どもの学びや未来づくりを支える姿勢が重要です。CSはそのための有効な手段であり、地域学校協働活動を充実させる鍵と言えます。

2 受講者の感想

- ・司会も記録も発表もない「熟議」がとてもよかったです。緊張することもなく、グループの方々の意見を聴くことができ、とても勉強になりました。
- ・学校と教育活動と地域が一体となって子どもについて語り合うことの重要性を改めて考えさせられました。社会教育の大切さを実感できる機会となりました。
- ・CSを進める際の大切な視点やあり方について学ぶことができました。横並びである重要性や「熟議」の行い方を知ることができました。実際に進めるにあたっては、焦らずに時間をかけてコミュニケーションを図っていきたいと思います。